

平成 31 年度
2/2 入学試験
国 語

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は 45 分です。
3. 問題は、1 ページから 15 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出なさい。
4. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
5. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入しなさい。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。
7. 記述問題では、指定された文字数の 8 割以上は書きなさい。ぬき出し問題では、指定された字数で答えなさい。どちらの場合も、句読点やかぎかっこなどの記号も字数にふくまれます。

① 次の1～8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 太陽の光をア**び**る。
- 2 合格のロウホウを受け取る。
- 3 女王ヘイカのお言葉。
- 4 けがをしないようにジチヨウして行動する。
- 5 来た人からジュンジ座ってよい。
- 6 サーカスの興行。
- 7 わがままを言われて往生した。
- 8 堂々としていて気位が高い。

② 次の1～4の熟語と同じ構成の熟語が（ ）の中に一つあります。それを記号で書きなさい。

例 外国語 (ア) 失敗作 (イ) 南半球 (ウ) 卒業式 (エ) 他人事 (エ)
答え エ

用例解説 例「外国語」：「外」 「国」 「外国」
「外」 = 「国」 = 「外国」
「上」の字が真ん中の字を修飾した二字熟語で、その二字で一番下の字を修飾している。
エ「他人事」：「他」 「人」 「他人」 「事」 = 「他人」 「事」

- 1 未発表 (ア) 不健康 (イ) 夏合宿 (ウ) 徒競走 (エ) 児童会 ()
- 2 貯水池 (ア) 決定的 (イ) 選挙権 (ウ) 雑木林 (エ) 乗車券 ()
- 3 深呼吸 (ア) 映写機 (イ) 二往復 (ウ) 過半数 (エ) 週刊誌 ()
- 4 価値観 (ア) 小細工 (イ) 外交官 (ウ) 収納庫 (エ) 全財産 ()

3 次の詩を読み、下の問いに答えなさい。

水とモンゴル

財部鳥子

水を飲むとき ①海を思ったりしないです
わたしは台所に立って
汚れた青い換気扇を見上げているだけです

河口や入江 ②遠くの ③怒濤を
心にも背にも 感じたりしないです
海に似てるモンゴルの 草原の

その ④ただ中の ⑤パオ
そこにも テレビがある と
思ったりしないです 人の体はほとんど

②水で出来ていると思ったりしない
魂は水で出来ていると思ったりしないです

水を飲むとき

③一刷毛の ④ピアノシモのように

③気管をやさしく羊が走っていく
そのとき癒された肉体が
ぶるつと 身震いするでしょう
でも水が喉を過ぎるとき

羊を追うモンゴルの男を思ったりしないです

水を飲むとき あなただつて

モンゴルの男を思ったりしないでしょう

喉の鳴る音が こだますからといって
羊皮の長いブーツをはいて ④大股に
水辺の方へ ⑤モンゴルの男は歩く と
思ったりしないでしょう

歩け 歩け 水の光るところまで
水辺の枯れ草原に風が吹くと
草は低く低くなびいていく まるで羊が
寝ているようです

枯れ草が風に逆らつて ざわめき立つ
そのざわめく移動する青の俊敏な
柔らかな跳躍！ と 水が喉を過ぎるとき
思ったりしないでしょう

⑤ただ透きとおるコップで
一杯の水を一心にごくごくと飲みます
あたりまえです

〔現代詩文庫 続・財部鳥子詩集〕 思潮社 による

注1 怒濤 Ⅱ あれくるう大波

注2 パオ Ⅱ 遊牧民が用いる組み立て式の家屋

注3 一刷毛 Ⅱ やわらかな筆ですつとなでるよ
うす。「少し」という意味。

注4 ピアニシモ Ⅱ 音楽の強弱記号の一つ。
「きわめて弱く」という意味。

1 線①「海」とありますが、ここでの「海」とはどのようなところですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
ア 豊かな水と美しい景観から人びとに愛されるところ
イ 母のように深い愛情で地球上のすべての生命を育むところ
ウ 人間に水をあたえもするが、危険にさらすこともあるところ
エ 水が集まって勢いよく注がれた先にある広大なところ
オ 目の前の現実から遠く離れた、まだ見たことのないところ

2 線②「魂は水で出来ている」とありますが、これはどのようなことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
ア 人の祖先は水から生まれたので、いつかは水に還るということ
イ 水は精神をつくる源であり、生命を支えているということ
ウ 魂は水と同じく透明で、何にでもなれる可能性があるということ
エ 肉体は消えても魂は水になってこの世に残り続けるということ
オ 平凡で身近なものが人の生活を豊かにしているということ

3 線③「気管をやさしく羊が走っていく」とありますが、これはどのようなことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
ア かすかに喉を鳴らして水を飲み、かわきがうるおされていくこと
イ 自然のにおいがわずかに残っている天然の水をいただくこと
ウ 体内のすみずみまで水が行きわたる音に耳をすませること
エ かわいた大地に水がしみこみ、だんだんと草木がしげつていくこと
オ 一気にごくごくと水を飲みほし、体から元気がわいてくること

4 線④「モンゴルの男」とありますが、これはどのような人ですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
ア 羊を狩る暮らしを受けつぎ、豪快に行動する人
イ 私たちと同じく現代の電化製品を使いこなして生きる人
ウ 部族の人の命を守るためなら、つらいこともいとわれない人
エ 海のない国に生まれたため、水を見たことがない人
オ 切実な思いでどこまでも行き、ひたむきに水を求める人

5 線⑤「一杯の水を一心にごくごくと飲みます」とありますが、これはなぜですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
ア 美しい水が地球に存在していることに感謝しながら飲んでいくから。
イ 水が手元に来る過程を想像すると、水がおいしく飲めないから。
ウ 体の欲求に素直にしたがうときに、余計なことは考えないから。
エ 汚れきった世界のなかでも私たちは生きていかなければいけないから。
オ 余計なことを考えていても、自分のむなしさは満たされなから。

④ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

母が仕事で忙しく、家をあけることも多かったのですが、私は専ら祖母に育てられました。

家で遊んでくれたのは祖母。買い物や近所のお寺のお縁日にもつれて行ってくれました。ふだんから用心して厚着をさせられました。それでも風邪をひいたとき、お医者さんにつれて行ってくれたのも、看病をしてくれたのも祖母。咳が止まらないと、辛子を塗った布で胸を湿布してくれました。

季節の行事を覚えてくれたのも祖母でした。お行儀も祖母仕込みです。襖はちょっと隙間があいていると、「①下三寸」と叱られました。あけはなそうものなら、「②下のあけっぱなし」と①られました。①られるのは、叱られるよりはるかに効力があります。

母にも教えられましたが、ひよっこりと現れて、あれこれと見咎める母の言葉より、いつも一緒にいて、叱ったり①たりしながら教え、言いつけを守ったらほめてくれる祖母の言葉のほうが断然説得力がありました。

叱られて言い返したこともありませんが、すると祖母は遠くを見やり、「③くちびる寒し秋の風」と④詠じるように言いました。すると、⑤私の心にも秋風が吹き、口答えをしたことを後悔したものです。

読み書きを覚えてくれたのも祖母でした。だから私の字は、祖母の字にそっくりです。

小学生のとき、母が⑥鼓を習い、私は一緒に謡いを習ったことがありましたが、子供にはとても読めない⑦謡曲本を、祖母は楷書で書き写してくれました。

持ち物に名前を書いてくれたのも祖母です。あるとき漢字で、またあるときは平仮名で、ベレー帽の裏にはローマ字の続け字で。ただし鞆には、私が知らない人に名前を呼ばれてふらふらついていかにように、「た」と、名前の最初の一字だけ書いてくれました。

言葉は自然に覚えるものではありませんが、子供はまず、一番身近にいる人が使う言葉を覚えます。私の持てる基本的な⑧語彙は、おそらくは祖母からもらったものでしょう。さらに祖母は、言葉を教えてくれました。朝起きて「寒い」と言うと、寒いにもいろいろあると言いました。肌寒い、小寒い、うすら寒い……。

幼稚園の送り迎えをしたのも祖母でした。母は保護者会や運動会のような行事には⑨万難を排して参加し、バザーでは売店に立ってジュースを売りもしましたから、忙しいのに⑩子煩悩だと言われていたようですが、保護者としてのふだんの地味な役割は、祖母が一手に引き受けていました。

(中略)

お友達と喧嘩して、泣きながら帰ってくると、祖母はよくよく話を聞き、「こんないい子は、なにぬねの」と言って抱きしめてくれました。

そして、今度やられたら、こう言い返せと、喧嘩のしかた、いやみの言い方まで教えてくれました。私はおそるおそるそれを実行していききましたが、⑪相手はせいぜい、ちよつと気まずそうな顔をして、「ごめんね」と言うのがよいところでした。

でも、「ごめん」と謝らせた、これはしてやったりのことなのです。祖母は常々「ごめんと言うのは自分の恥」と言っていました。間違ったことをするな、ということ。その人は「ごめん」と言ったことで、自分の非を認めたことになり、それは恥ずかしいことなのでした。

人はつい、ごめんと言います。悪くないのにごめんなさい、申し訳ありませんと簡単に謝ります。ときには、ありがとのかわりに、すみません、とも。謝ることに抵抗がありません。その場の空気をやわらげるために使うようでもあり、また謙譲の意味で使うこともあるようですが、でも、お詫びは謙譲とは違つてでしょう。そう言う私も、しばしば悪くないのに謝ってしまうのですが、そのたびに矜り高かった祖母のことを思い出します。

祖母は、⑫でした。誤らなかつたからです。

いつも一緒にいて、私は当然のように、おばあちゃんに育ちました。⑬母は母で、いじくりまわすように可愛がつてくれましたが、それは自分が気が向いたり、時間のあるときに限つてのことです。私のほうから母の寝室兼書斎の襖をあけ、「今、考えごとをしているから」とか「忙しいから、あとでね」と冷たく追い払われたときは、悲しいというより、遊んでくれることを期待した顔をどうしたものか、恥ずかしいような気持ちになりました。部屋に入ることゝゆるされても、椅子によじのぼつて座り、足をぶらぶらさせただけでいららするからやめてほしいと言われ、予想もしていない反応にひどく傷つたものです。

母の言うことは聞かなくても、祖母の言うことは聞きました。母は泣かせても、祖母を泣かせるような真似はできません。こんな私に、母は、あなたはほしい誰の子なのだと、祖母のことを妬きましたが、これはいたしかたのないことでした。

おばあちゃん、大好き。ただしそれは、必ずしも祖母が自分の祖母だったからではありません。やさしかったからでもあります。やさしい厳しいと言うならば、祖母は厳しい人でした。

といつても、その厳しさは、厳格ということとは違います。強いて言うなら、内に「厳しさ」を持った人と言つたらいいでしょ

うか。

私が小学校の二、三年生のころだったと思います。ある時期、家に猿のぬいぐるみがありました。どなたかにいただいたのか、あるいは何かの景品だったのかもしれませんが。顔がひどくリアルで、母はそれがきらいだと言いました。その時点で、どこかにしまってもよかったのですが、なぜかそのぬいぐるみは、いつも居間のどこかに、まるで何かを抱きかかえるように両手両足で輪を作ったまま転がっていました。

あるとき、指圧の得意な知り合いが来ていて、母は居間に布団を敷き、気持ちよさそうに身体を押されていました。そんな様子を見て、ふと私の中に^⑥悪戯心が湧き上がりました。

私は猿の顔を母の顔のほうに向けて、その枕元に置きました。「目をあけて」

言われるままに目をあけて、その途端、母はギャツと叫んで跳ね起きました。

そのあと、どうなったか覚えていないのは、とんでもないことが起きたからでしょう。母は泣き叫んだかもしれないし、ぬいぐるみをどこかに投げつけたかもしれない。そして自分の部屋に駆け込むと、襖を家が揺れるほどの勢いで閉めたでしょうか。知り合いもおそれをなして、帰ってしまったのかもしれませんが。

次に覚えているのは、私が^⑦祖母と二人きりの居間でおおい泣いたことです。自分のしたこと(注9)顛末に驚き、泣かずにいられなかったのでしょう。そして泣きながら、祖母の慰めを待っていたのだと思います。

やがて口を開いた祖母は、どうしてあんなことをしたのかと静かに問いました。私はしゃくりあげながら、「驚かせようと思った」と答えました。

すると、祖母は毅然として言いました。

「だったら、泣くことないやないの。あなたの計画は成功したのやから」

これが^⑧祖母の厳しさでした。お母さんのいやがることをしたらだめじゃないの、そう叱ってもらったほうが、どれだけ楽だったか。祖母はこわいほど正しいことを言って、私の急所——悪意の所在——を突いたのでした。もう悪いことはできないどころか、悪いことを考えることさえできなくなるほど(注10)鮮烈な、断罪の記憶です。

(中略)

いつも姿勢を正し、まっすぐに事の本質を見ぬいていた祖母。私はそんな祖母を尊敬していました。好きというよりも、ほれて

いました。たとえ祖母が、私の祖母でなくても、ほれずにはいられなかったと思います。そして、そんな人が自分の祖母として身近にいたことは、私にとって何よりも幸運なことでした。

(有吉玉青『ソボちゃん いちばん好きな人のこと』平凡社 による)

注1 下三寸 〓 襖や障子の閉め方を評したもの。下は、わずかに開いたままのことで、下下はほとんど閉まっていないこと

注2 くちびる寒し秋の風 〓 人の短所を言ったあとは、後味が悪く、さみしい気持ちがすること

注3 詠じる 〓 実際に声に出して詩歌を読むこと

注4 鼓を習い、私は一緒に謡いを習った 〓 「鼓」も「謡い」もともに能楽のお稽古事

注5 謡曲本 〓 謡いを学ぶための本

注6 語彙 〓 ことばのまとまり

注7 万難を排して 〓 何としても

注8 子煩悩 〓 育児や教育において、子供を非常に可愛がっていること

注9 顛末 〓 はじめから終わりまで

注10 鮮烈な、断罪の記憶 〓 はっきり覚えている、罪をさばかれた記憶

1 ①にあてはまることはとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア なぐさめ イ おいつめ ウ 泣かせ エ おだて オ あきれ

2 〓 線②「私の心にも秋風が吹き」とありますが、これはどのようなことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア いくら言い返しても私のことは祖母の心に届かないと感じ、あきらめを感じているということ

イ 祖母の考えの正しさが改めて実感できて、自分自身を恥ずかしく思っているということ

ウ 祖母が私から言い返されて怒りを感じたように、私もまた祖母の気持ちに共感しているということ

エ 祖母は私を叱っただけではなくほめてくれたのだと分かり、感謝しているということ

オ 私に言い返された祖母がどのような気持ちになったかを理解でき、申し訳なく思っているということ

3 線③「相手はせいぜい、ちょっと気まずそうな顔をして、『ごめんね』と言うのがよいところす」とありますが、このときの筆者の気持ちはどのようなものと読みとれますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 相手に非を認めさせたが、期待したほどの反応が得られず、心からは納得しきれない。
- イ 自分に非がなくともすぐに謝ってしまう、信念を持たない人と友達になったことを後悔している。
- ウ 無理に謝罪させた相手に対して申し訳なく思う一方で、謝ることの必要性を実感している。
- エ 表面的にしか謝ってもらえなかったので、祖母の教えは正しくなかったと感じている。
- オ 相手に本心から謝ってもらえるようなふるまいのできる祖母を尊敬している。

4 ④にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 信念を曲げません イ 謝りません ウ 喧嘩をしません エ 恥じらいません オ 感情を見せません

5 線⑤「母」とありますが、「母」はどのような人だと読みとれますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 周りの人たちからは娘を一番に考えているように見られているが、本当は娘への愛情がない人
- イ 自分の気分だけで娘をおもちゃのように扱い、娘からどう思われようが気にしない自由な人
- ウ ふだんは娘よりも仕事を優先することが多く、娘の気持ちを理解しようとしなない身勝手な人
- エ 家庭と仕事の両立を図るために努力していることが家族に伝わっていないかわいそうなお
- オ 本当は娘から好かれない気持ちを素直に行動で表すことができない不器用な生き方の人

6 線⑥「悪戯心」とありますが、このときの筆者の気持ちはどのようなものと読みとれますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア いつも私を振りまわす母に仕返しをしてやろうという気持ち
- イ 母の交友関係なんて壊してしまえという気持ち
- ウ 祖母だけでなく、たまには母をかまっあげようという気持ち
- エ 母がどのような顔をするのか見たいという気持ち
- オ 母の困る顔をみんなに見せつけてやろうという気持ち

7 線⑦「祖母と二人きりの居間でおいおい泣いた」とありますが、なぜこのようにしたのですか。その理由を四十字以内で書きなさい。
(下書き用)

8 線⑧「祖母の厳しさ」とありますが、これはどのようなことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア あえて叱らずに私のしたことを肯定し、自分の考えや行動に責任を持つようにさせたこと
- イ 物事の善悪の判断をあいまいにし、人どう接すればよいかわからないようにさせたこと
- ウ 悪いことをしたらどうなるのかを繰り返し説き、母との関係を修復させようとしたこと
- エ 私の感じている罪悪感をともに背負おうとし、自分自身を責めるように仕向けたこと
- オ 本来は叱られるべきことを許し、私の軽はずみな考えに反省をうながしたこと

9 この文章から、祖母はどのような人だと読みとれますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア どんな時でも筆者を温かく包みこみ、どんな事でも許してくれる心の広さをもっている人
- イ 筆者と母との関係をいつも気遣い、母よりも厳しい存在でいようとしてくれた人
- ウ 筆者の友人関係の悩みを聞き、時には祖母自ら友人関係を解決してくれる頼りがいのある人
- エ 教育熱心で言葉や礼儀作法を大切に、筆者が大人になっても恥をかかないようにしてくれる人
- オ ほどよい距離感で筆者に向き合い、時にやさしく時に厳しく接してくれる気高い生き方をする人

⑤ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

若者はキャラという言葉をよく使うが、若者に限らず、だれもが場によって自分の出し方を調整している。

① こういう相手には、こんな自分を出し、ああいう相手には、また別の自分を出すというように、自分を出すように心がける。まじめな自分で行くか、楽しくはしゃぐ自分で行くか、それはその場の雰囲気や日頃の人間関係をもとに判断する。

② これが空気を読むということだが、場の空気を読み、それに合わせて自分の出し方を調整するのは、非常に気をつかう作業になる。だが、もし自分のキャラが決まっていれば、それをせばよいのだからとても楽だ。

もちろん、場によって微妙にキャラが違うというのがふつうだ。ゆえに、教室でのキャラ、とくに親しい友だちとの間でのキャラ、近所の友だちの間でのキャラ、塾の仲間とのキャラというように、複数のキャラを使い分けるのもよくあることだ。

実際、キャラがあることで集団の中で自分の立ち位置がはっきりするので、自分の出し方に頭を悩ます必要がないから便利だという声や、自分のキャラをもつことで友だちとのコミュニケーションが取りやすくなるという声もある。

ある学生は、気をつかいすぎて、人づきあいに苦手意識をもっていたが、大学に入ってグループの中でキャラを設定されてから、友だちづきあいが楽になったという。

「僕は、昔から場の空気を読むのが苦手で、こんなことを言ったら浮いちゃうかなと気にしすぎるところがありました。それではなかなかしゃべれず、しゃべったとしても、あんなことを言ったら大丈夫だったかな、場違いじゃなかったかなって、あとになってから気に病んだりして、高校時代は気をつかって、すごく疲れました。でも、大学に入ってからできた仲間の間では、いつの間にかそれぞれのキャラが決まってきて、僕にも自分のキャラができました。その仲間たちといるときは、そのキャラを出していればいい。だから、以前みたいにどんなふうにも自分を出そうかと迷わなくていいから、すごく楽になりました」

③ 自分の出し方をうまく調整する自信のない人物にとつては、キャラは強力な武器となる。とりあえずキャラが決まっていれば、自分が人からどのように見られているか、どのように振る舞うことを期待されているかがはっきりするため、自分の出し方に迷うことがなくなる。

④ A、キャラに則って行動していれば、うっかり場違いなことを言ったとしても大目に見てもらえるという利点もある。

たとえば、「⑤ a キャラ」なら、適当に話を聞いて勝手なことを言っても、「⑤ a だから」と許される。

「⑤ b キャラ」なら、きついことを言ってストレス発散をしても、「⑤ b キャラだから」ということで、とくに目くじら立てられることはない。「クールキャラ」なら、ちょっと気取った感じになった場合も、「クールキャラだから」と受け入れてもらえる。

その一方で、キャラに縛られ、自由に振る舞えないということが起こってくる。キャラのイメージに沿った行動を取ることによって仲間から受け入れられる。どんな行動がその場にふさわしいかにいちいち頭を悩ませずにすむ。そういったメリットがあるものの、キャラの（注1）拘束力はとても強力なため、窮屈な思いをさせられることがある。

④ B、優等生キャラで通っている人も、ときにみんなと同じように思い切り羽目を外したい気分になることだってある。いつもはもの静かで落ち着いたキャラなのに、大声ではしゃいだり、ふざけたりしたくなることもある。でも、そんなことをしたら、「らしくない」ということで、周囲の仲間たちを驚かせてしまうので、衝動にブレーキをかけ、自分のキャラにふさわしく振る舞わなければならない。

⑥ キャラには便利な面があると同時に、そうした不自由さがつきまとう。

⑦ とくに周囲の反応に過敏なタイプは、環境の変化に弱い。進学したり、新学期になってクラス替えがあったりすると、自分を抑えつつ周囲の様子を窺うことになる。そのため、周囲からはまじめでおとなしいキャラとみなされやすい。本来、遊び心が豊かで、ノリの良いタイプの場合などは、新たな環境に馴染まないうちにつくられたキャラのせいで、悪ふざけができず、ノリの良さを発揮することもできずに、非常に窮屈な思いをする。

逆に、周囲に溶け込むようとして（注2）道化役を演じた場合などは、まじめな自分を出せないきつさがある。いつもみんなを笑わせている人物も、何か悩みごとができ、深刻な気分になることだってある。そんなときも、教室に入ったとたんに、バカな冗談を連発してみんなを笑わせる。そんな自分に嫌気がさすこともある。

いつも元気で明るいキャラとみなされてしまうと、内面をほとんど出せなくなる。だれだって内面を振り返れば、不安があったり、迷いがあったりするものだ。だが、そんな暗い面は（注3）おくびにも出せない。無理して明るく振る舞っているうちにそれが自動化し、意識的に無理をしなくても、友だちといるときは元気で明るいキャラになる。そのおかげでみんな楽しんで場には呼ばれるが、二人つきりでホンネの話ができる友だちができない。どんなに落ち込むことがあっても、いつも笑顔でおちゃらけて、周囲を笑わせ、場の盛り上げ役を引き受けている。そんな習性を身につけてしまった自分が悲しいという人もいる。

人づきあいをスムーズにしてくれるはずのキャラに首を絞められる。ここにも自分をうまく出しながら周囲に溶け込むことの難

- 注1 拘束 || 行動の自由をうばう
 注2 道化役 || 人を笑わせるおかしなしぐさをする人
 注3 おくびにも出せない || そぶりも見せられない
- 1 ——線①「その場その場にふさわしい自分を出す」とありますが、このために必要なのはどのようなことですか。文章中から十字で採り、初めと終わりの三字をそれぞれ書きぬきなさい。
- 2 ——線②「非常に気をつかう作業になる」とありますが、これはどのようなことですか。その説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
- ア 周囲の人々に応じて自分の出し方を使い分けること
 - イ 本来の自分というものを周囲の人々に見せないこと
 - ウ 他人の振る舞いについて自分が絶えず気にかけること
 - エ 本来の自分の出し方を常に調整しながら過ごすこと
 - オ 自分は他人からどのように見られているか意識すること

- 3 ——線③「キャラは強力な武器となる」とありますが、これはなぜですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
- ア 自分がどのような見られ方をしても平気だと感じるほど、自分に自信を持つようになるから。
 - イ 自分がどのように見られているかを分かっており、どのように振る舞うべきかを判断できるから。
 - ウ 自分がどのように振る舞っても、自分は自分であるから変える必要がないことを確信しているから。
 - エ 他人が何をしても自分には利害が全くないため、周囲に余計な気をつかわずに過ごせるから。
 - オ 他人が自分を受け入れる準備をしてくれているので、自分のどんな様子や振る舞いも許されるから。

- 4 アとこが ④A、④B にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で書きなさい。

ア ところが イ たといえば ウ いわば エ さらに オ だから カ なお

- 5 ⑤a、⑤b にあてはまることばの組み合わせとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
- | | | | | |
|-----|--------------------------|--|---|-----------------------------|
| ア a | 不真面目 <small>ふまじめ</small> | | b | 嫌われ <small>きらわれ</small> |
| イ a | 優等生 | | b | 人懐っこい <small>ひとなつこい</small> |
| ウ a | 天然 | | b | 辛口 <small>からくち</small> |
| エ a | お姉さん | | b | おちょこちょい |
| オ a | 身勝手 | | b | おもしろ |

- 6 ——線⑥「キャラには便利な面があると同時に、そうした不自由がつきまとう。」とありますが、なぜこのように「不自由」がつきまとうのですか。その理由を「から」に続くかたちにして三十五字以内で書きなさい。
(下書き用)

から。								
	28							

7 ――線⑦「とくに周囲の反応に過敏なタイプは、環境の変化に弱い。」とありますが、これはどのようなことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 自分らしさを出そうとする一方、新しい環境では周囲の視線に配慮した行動をとらなければならないと意識する必要にせまられてしまうこと
イ 新しい環境に合わせたキャラを演じなければならないのに、今までの自分にこだわること、キャラを変えることが難しくなってしまうこと
ウ 本来はキャラなど存在しないのに、少しふざけた行動をとっただけで周囲から信頼できない不真面目なキャラと決めつけられてしまうこと
エ 人間には誰しも明るい面と暗い面があるものだが、周囲からつくりあげられたキャラによってどちらかの面に強制的に振り分けられてしまうこと
オ 新しい環境で周囲に溶け込もうとするためにつくられたキャラによって、自分の内にある他の面を出すことができなくなってしまうこと

8 この文章の内容と合っているものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 他人から認識されるキャラと自分自身とは必ずしも一致するわけではないので、本来の自分を出すことが困難になる。
イ 人は誰もがキャラを決めて生活していくものであり、そのようにしないと周囲の人々からうとましく思われてしまう。
ウ キャラを決めることは人間関係を築く上で重要であり、周囲の意見も聞き入れながらキャラをつくりあげる必要がある。
エ 環境の変化があつたとしても、自分のキャラが変わるわけではないため、そのキャラのあり方に縛られることになる。
オ 自分で決めたキャラを演じていくことによって、もとの性格もそのキャラに近づいていってしまうことがある。

(問題はこれで終わりです)

平成 31 年度
2/2 入学試験
国 語

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は 45 分です。
3. 問題は、1 ページから 15 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出なさい。
4. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
5. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入しなさい。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。
7. 記述問題では、指定された文字数の 8 割以上は書きなさい。ぬき出し問題では、指定された字数で答えなさい。どちらの場合も、句読点やかぎかっこなどの記号も字数にふくまれます。